

2017年8月2日作成

## 加飾技術研究会のビジョン、3年計画、2017年度事業計画・目標

加飾技術研究会は2009年、加飾に興味を持つ先駆者が集まって立ち上げました。その後大きく展開することを模索してきたが、なかなか困難な状況が継続してきました。

最近、加飾技術は、加飾の本来の目的である見栄え・外観・質感の向上にとどまらず、電気・光機能、触覚機能、聴覚機能など各種の機能を付与した「機能性付与加飾」へと展開しており、塗装などウエット方式の加飾に代わる「ドライ方式の加飾」のニーズが高くなってきている。そして、日本においても自動車外板へのプラスチック加飾の採用の可能性も高くなってきており、さらに、CFRTP（炭素繊維複合材料）の加飾も動き始めている。

このように加飾は大きく発展・注目されており、加飾は「感性価値」や「高付加価値」など今後の日本経済のほうこうづけに寄与することがされる。

このような状況下で、2016年に加飾技術研究会をリニューアルスタートし、活動を積極展開・活性化して、1年が経過した。

このたび、加飾技術研究会は、今後のますます発展を祈念し、そのビジョン（2016年のリニューアルスタート時に改正した定款の目的および事業）を再確認し、2016年～2018年度を基礎固めの期間とした3ヶ年計画をたて、その中で、2017年度の具体的な事業計画・目標を作成した。

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. 加飾技術研究会のビジョン       | P 2    |
| 2. 2016年～2018年度の3ヶ年計画 | P 3    |
| 3. 2017年度の具体的な事業計画・目標 | P 4, 5 |

## 加飾技術研究会のビジョン

プラスチックの加飾技術は、今や各種プラスチック製品にかかる技術の重要な一分野となっている。しかし、その裾野は広範で、互いに異業種であるような存在に陥りがちになっている。そのため、プラスチック加飾に携わる企業、団体、個人等を総合的に結び付ける場がなかった。

本会は、プラスチック等を主な対象とした加飾技術の調査、研究、開発、情報の提供、講演、技術支援等を行い、これらの実施を通じてプラスチック等の加飾に携わる企業、団体、個人等を普遍的、有機的に結び付けるプラットフォームを提供し、加飾技術の方向性を創造して、本分野の発展に寄与することを目的とする。

### [事業ドメイン]

加飾技術研究会は、加飾技術の発展と会員の事業展開を支援するために以下の事業を行う。

- (1) 研究会、講演会等の開催
- (2) 加飾技術の調査、研究、開発、マーケットの調査研究など
- (3) 会誌等の発行
- (4) 加飾技術の調査・研究・開発に対する支援
- (5) 会員相互の連絡と連携、および懇親の深化
- (6) その他

## 2016年度～2018年度の中期（3年）計画

2016年度～2018年度の3年間は、リニューアルスタートした加飾技術研究会の基礎固めの期間として、ビジョン実現に向け、他の類似団体の参入の余地のない態勢を整える。

### (1) 2016年度（終了）

2016年度は、定款（ビジョン）を大幅に改定し、基礎固めの初年度として、幹事会を中心に、具体的な運用方法を検討し、会員勧誘を行い、事業ドメインの中の（1）を実施し、（2）、（3）、（5）も一部実施した。

- (1) 研究会、講演会等の開催
- (2) 加飾技術の調査、研究、開発、マーケットの調査研究など
- (3) 会誌等の発行
- (5) 会員相互の連絡と連携、および懇親の深化

\*ビジネスでのライバルが技術屋仲間として交流する場の提供も行った。

### (2) 2017年度

2017年度は、2016年度の実績、反省に基づき、P4に示す「2017年度事業計画・目標」の達成に取り組む。

### (3) 2018年度

2018年度は、基礎固めの最終年で、かつ、次の3年計画の初年度として位置づけ、加飾技術に関するプラットフォームとしての地位を確立する。

2018年度の具体的な計画は、2017年度の実績、反省に基づいて、2017年度末に作成するが、下記項目の実施を目指す。

- 1) 一般社団法人としての体制の整備。
- 2) 研究会、講演会の充実。一般からの募集講演の開催なども検討。
- 3) 加飾技術、加飾マーケットなどの調査業務の充実。個人から加飾研としての実施へ。
- 4) 情報発信強化。Archive 頁の充実、会誌の検討など。
- 5) 会員への技術相談、技術支援実施。
- 6) 会員相互の連携支援。
- 7) 関係外部団体との交流充実。

## 2017年度事業計画・目標

- (1) 研究会（例会）を4回開催する
  - 1) 第23回研究会：6月22日，第9回定時総会後に開催（終了）。
  - 2) 第24回研究会：9月12日，ローランドディー・ジー・の東京クリエイティブセンター見学と2件の講演と1件の企業紹介
  - 3) 第25回研究会：11月頃開催，日本写真印刷・産業資材事業部訪問，印刷歴史館見学と2件の講演
  - 4) 第26回研究会：2月頃開催，東京。（具体案検討中）
  - \*各例会で、会員企業のPR，課題提供を盛り込む。
  - \*会員以外の有料参加の勧誘に積極的に取り込む。
  - \*各研究会後の情報交換会で、親睦を深め、情報交換を行う。
- (2) 情報発信
  - 1) レターを2回（7月（第22号），1月（第23号））発行する
  - 2) 「加飾の基礎と最近の動向（仮）」の書籍の発行を目指す。
  - 3) HPのArchive 頁およびその他で、会員による徹底した情報発信を行う。（情報は発信した者に集まる）
- (3) 会員の拡大

今年度は、法人，個人で，25人・社の開拓を目標として，H29年度総会時の会員，60人・社を目指す。

参考：H26年総会時：14人・社  
H27年総会時：35人・社

  - \*会員個人の各種展示会でのブース訪問，講演，関係者との接触などで，加飾研のPR，会員勧誘を積極的に行う。（会員各自に協力をお願いする）
- (4) HPを改正，充実させる
  - 1) HP全体を見直し，より見やすく，利用しやすいHPに改正する。  
体裁より，内容充実，利便性を重視する。
  - 2) 加飾技術研究会会員サイトのアーカイブを見直し，より充実したサイトに改正し，会員に加飾関連情報を積極的に提供する。
- (5) 加飾技術の調査・研究・開発に対する支援に取り組む。
  - 1) 例会で，会員の技術紹介，課題提供を行う場を設ける。
  - 2) 個別に、技術相談，技術支援を受付け，会員を中心とする適切な人材による対応を行う体制を整える。（本件は、原則，有償対応とし，その対価などは内規で定める）
- (6) コンバーティングテクノロジー総合展2018に参加し、来場者の加飾関係の技術相談を実施し，一方で加飾技術研究会のPRに努める。
- (7) 一般社団法人 加飾技術研究会の設立準備

加飾技術研究会を一般社団として法人化することについて準備を開始し，今年度の法人化を目指す。

1

(8) 外部団体との交流を充実する。

- 1) 「日本工業出版（プラスチック）」、「プラスチックスエージ」、「加工技術研究会」などのメディアとの関係を深める。
- 2) フェイスブックのグループ、「プラスチックの語り合い広場」との交流を深める。
- 3) その他、日本、海外（中国、台湾、韓国）の関係団体との交流を模索する。

上記の運営を積極的に推進するために、下記の会を開催する。

(1) 幹事会の開催

会の具体的な運営を検討・企画・推進するために、副会長（研究会統括担当）、総務・会計担当理事、事務担当理事、顧問を中心とする幹事会を適宜開催し、運営する。  
適宜、会長、理事などにも出席いただく。

(2) 理事会の開催

総会前などに、定例理事会を開催する。

\* 上記幹事会、理事会、その他の活動は、当面は、有志によるボランティア活動として行うが、今年度から、規則、内規にもとづいて、交通費の一部の支給を行う。

以上